

慈眼寺たより

第7号
平成21年12月
春日井市下市場町
「慈眼寺」
電話 81 6801
編集 伊藤秀文

営農組合について

伊藤一美

営農組合の始まりは、土地改良の基盤整備が終るころ、昭和五三年だと思えます。その時期に先輩方の骨折りで、営農組合を作る相談が持ち上がった。有志を募られ私にも話がありました。世間では色々な意見があり、それらを耳にしながら仲間に入れてもらいました。とにかく二名が集まり、昭和五四年に組合が出来ました。初代組合長ならびに役員は苦労されたと思えます。まずは資金、倉庫、農機具その他の問題がたくさんありました。そのとき農業振興会というのがありまして、組合員全員の資産を抵当に入れて、資金を借りて、倉庫を作り機械を買いました。また、当時はほとんどのメンバーがサラリーマンでした。夏は日が長いので、会社から帰ってから夜遅くまで働き、近隣の部落まで農作業に出かけたものです。また転作をしいられ、麦、豆、はと麦、しょうがなどを作付けしました。あれから三〇年になります。組合員が四〇代、五〇代の前半で若かったが、体が疲れ大変でした。農

業をやめたいと思ったこともありましたが、土地改良をして農作業をやりやすくした農地を捨てるわけにはいかならないと思いつながら三〇年の月日が暮れました。長いような短いような気がする今日この頃です。現在は男性七人、女性六人で働いています。私は一〇年間まとめ役を勤めさせていただいております。皆さんに協力をしてもらって頑張っております。

三〇年振り返ってみるなかで、どんな事でも一般の方々の協力と理解そして役員の一層の努力が必要と思えます。当時、春日井市には営農関係の組合が四組合ありました。全部解散されて残っているのは当組合だけ。今の農業は経済的に非常に悪い。例えば、農業機械一台買っただけで何十年かの米が買えるかと思つて考えさせられます。北城町の農地は、半永久農地になっているようです。誰かが耕作をしていかなければならないと我々が今のところ頑張っていますが、先が見えてこないような気がします。

三〇年暮れまして、長いようでも短いような気がします。この間に五人の方がなくなり、世代交代もあり

ました。機械はトラクター二台、田植え機は肥料を入れながら植える六条植と普通の五条植各一台、コンバイン四条刈二台、乾燥機は大型二台、小型一台を所持しています。維持管理に大変です。耕作面積は十二ヘクタール、依頼農家は約三〇戸くらいです。米の取り扱量は、昔は三千五百俵くらいありましたが、今では二千俵ほどです（乾燥、籾スりを終った量です）。半分以上は他所から籾を持って依頼される分です。



毎年、小学生に農業の体験をさせていますが、色々と質問が変わってきています。例えば「いくら給料がもらえますか」また「インターネットを調べたら、魚沼産のコシヒカリを一〇キロ九四〇〇円で売っていますが、伊藤さんはいくらで売っていますか」そんな質問があらました。時代の流れかな。「給料はもらえない」、「米は魚沼産の三分の一」と答えておきました。北城産の米は、木曾川からパイプラインできれいな水が入っていますので、値段の割にはおいしいです。一人でも多くの方に北城の米を食べていただければ幸いです。

〈青柳歌壇・俳壇〉

本堂に積み

白一色の下市場

鉄路に雪音

色セピアの果実とる

伊藤清雄

ふる里の 山見るたびに 悔い詫びる

父母困らせし ことの多きを

暖かき 人の絆が 身に沁みる

遥かなる道 いま顧みて

今井正

子に送る はちきれそうな

なす 茄子胡瓜

敷き藁を 雀のつつく

秋日和 貴美子

彼岸花 背丈稲穂と

競い合い

丁寧な 落ち葉掃き寄せ

氏子かな

秀

二年間をふりかえって

伊藤久幸

この二年間に「慈眼寺だより」が四回発行され、四名の方の巻頭文を読ませていただきました。どの玉稿も示唆に富んだ含蓄のある名文だと思えます。お寄せいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。私なりに、感想をまとめさせて頂きました。

桃づくり六〇年

大野友夫

下市場の桃づくりは、すべてゼロから出発した。桃づくりの歴史が語られていきます。

生産性を高めるための栽培技術の向上や、生産効率を高めるための工夫が行われました結果、当地域の栽培は春日井市の一大産地に発展し、最盛期には出荷量が春日井市で一番にまでなりました。

定納では、数年前まで一部桃畑が残っていました。今では宅地化され、新しい住宅街になった。東名高速の北側、山前に少し桃畑が残っているだけです。春さき、桃畑は花で一面ピンク色に変わり、のどかな風景です。最盛期には六十八戸あった栽培農家も、都市化の波と生産者の高齢化によって、現在は組合員数名の形ばかりの組合になった。

先人たちがこの変貌ぶりを見たらどう思うだろうか。先人たちの農業に対する情熱、血のにじむ努力の結果のおかげで、現在の下市場の繁栄があったと思います。(三号)

下市場を見つめて六〇年

伊藤清雄

四ツ谷面から下市場面の面上にある郷中の変遷を六〇年間俯瞰つづけた貴重な記録文です。

○ふと馬のいななきが下市場の辻
○木戸道を 慈眼寺へ急ぐ盆の風

四季の移ろいやゆくもりを感じ、時は寡黙に過ぎてゆくようだ、昭和のロマンの夢が聞こえてくるようです。

○伝統はすでない狐塚 新緑

「下市場誌」によると「狐塚」篠木八丁目の名古屋トヨペット西側の高台に狐塚あり。明治・大正時代には下市場地区内の野山で、狐の姿を見ることは普通であった。同誌資料編には「又四と狐」「曾呂利惣八」の昔話が記載されています。

区画整理等によって得たもの(利便性)と失ったもの(自然、伝統、文化等)を天秤にかけると、あなたの天秤はどちらに傾きますか?(四号)

伊勢から春日井へ

藤井健三

故郷は三重県伊勢で、その地で学業を終えられ、本社を春日井市に置く電機メーカーに就職されました。

家庭を持ち、子を育て、家も建てられ、四十四年を「忍」の一字で勤め上げ、定年を間近にした頃、永年苦

楽を共にした奥様が急死されました。余生これからと云う時、残酷なことであった。縁あって、慈眼寺浩道和尚に引導をお願いし、新しい檀家になられ、春日井のこの地が第二の故郷になった。趣味は日曜大工で、本堂の取り壊しの時、六寸角の桧柱を

貰い受け、生け花展の受台なる猪牙船を作成された。古い桧柱に愛着を持ち、それに新しい生命を与えられました。異なった目線でものを見る、

するどい洞察力の持ち主です。
檀家が一軒ふえたことは、われわれにとつては本当に喜ばしいことです。(五号)

妻へのメッセージ

伊藤眞一

妻への夫の優しい夫婦愛、内助の功に対する感謝の気持ちを表した珠玉のエッセイです。現代、価値観の多様化等による離婚が多く、夫婦に欠如していると思われる夫婦愛、家族の絆のあるべき姿が語られ、夫婦の鑑です。

サラリーマンの眞二氏と二十歳で結婚され、農家の大黒柱として重労働に従事しかつ、子育ての忙しい日々の連続であった。知らず知らずのうちに難病(パーキンソン病等)にかかり、病気との共存を余儀なくされた。人生後半の四〇年間は、圃場整備・区画整理等による環境の変化に順応しながら、医学の進歩に一縷の望みをかけ、闘病生活に埋没することになる。

この世の中には、何もなく平々凡々が幸せというふうに住む者がちですが、辛く苦しい体験の中でも夫婦の愛・家族の絆を信じつづける生き方にとても励まされました。(六号)



平成二十二年年度年忌表

来年の年忌は次のとおりです。お早めにお申し込みください。

年忌	逝去年
一周忌	平成二十一年
三回忌	平成二十年
七回忌	平成十六年
十三回忌	平成十年
十七回忌	平成六年
二十三回忌	昭和六十三年
二十七回忌	昭和五十九年
三十三回忌	昭和五十五年
三十七回忌	昭和四十九年
四十三回忌	昭和四十三年
四十七回忌	昭和三十九年
五〇回忌	昭和三十六年

各個別の年忌はホームページでも見られます。ご利用ください。

行事予定

- 二月十一日 大般若会
正午から御詠歌奉詠
午後一時から法要、続いて
法話の会があります。
- 二月十五日 涅槃会
十時から法要
- 四月八日 灌仏会
十時から法要
甘茶を戴いてください。
- 八月十八日 お施餓鬼
受付は七月一日からです。
棚経は八月十日くらいからです。
原則は今年と同じです。お盆前に
各戸別のご案内をお送りします。

「ゴシヨウ芋」

木村廣孝

「ゴシヨウ芋」とは、一般的に「キク芋」として最近市場に出回っているものですが、植物分類ではキク科ヒマワリ属となっています。戦後の食糧難のとき、この芋の栽培が推奨され、檀家の方の中にも、屋敷の隅などで栽培された人がお見えになることでしょうか。

尾張や東濃地方では、ハツシヨウ芋とも呼んでいるようですが、痩せた土地で一株から五升も八升も収穫できるという意味らしいです。とすれば、「五升芋」と書くのでしうか。

では、いつごろから栽培されているのでしょうか。テレビドラマの「木枯らし紋次郎」の中で、彼が上州新田郡三日月村へ帰ったときに、農家の娘さんが痩せた土地を開墾してこの芋を植えて、「ゴシヨウ芋」の芽が出てきたと話していました。このドラマの時代背景は天保年間であり、そのころから上州と尾張で同じ呼称を使い、全国的に栽培されていたかは不明ですが、カナダの原住民が冬の食料不足のとき、この芋で飢えをしのいだそうです。また薬効成分もあるそうで、血糖値を下げ糖尿病にも良いといわれています。実際、私の友人にも漬物で少しずつ食べ血糖値が下がったといった人がいました。その漬物ですが、この芋は味噌漬が一番食べやすく、カリカリ感があっておいしいと思います。漬け方は、収穫したら、まず海水よりやや

辛めの食塩水でアク取りをします。

その後水切りし、タツパなどの容器の底へ五ミリくらいに味噌を敷き、その味噌が見えなくなるくらいにザラメ砂糖を均等に入れ、その上に芋を並べていきます。大きな芋は半分に切るといいでしょう。凹凸を少なくし、隙間へ味噌を詰め、またザラメを均等に入れ、さらに芋を並べ、また味噌を入れる、の繰り返しです。味噌は大サジの背面で押しならせばよいでしょう。これで二週間もすれば、素敵なお茶漬の友が出来上がります。

栽培方法ですが、日当たりの良い場所であれば、土地が痩せていても肥料はいりません。消石灰を入れ、土を細かくして小石を除き、三月に地表から一〇センチ下へ一個ずつ植え付けます。四月中旬には芽を出し、茎は一本立ちで育て、時々土寄せをすれば、背丈一メートル位にもなり、十月ごろには黄色いヒマワリのような花が咲き、十二月には一株からスパーのレジ袋いっぱい的大量の芋が収穫できます。この芋は外気に触れるとだんだんと黒ずんできますので、早めに漬物処理してください。



年のとり方を考える

住職 春日井浩道

最近、とてもよく目につく車があります。いわゆるミニバンという車で、乗っているのは老人ばかり。データービスの送迎車です。そしてそんな老人介護の施設がそこらじゅうに出来ています。

こういうものが出来る前は、介護の必要ある老人達はどうしていたのでしょうか。自分で動けるうちは、そのあたりで日なたぼっこでもしていたでしょう。孫のお守り位できた人は上等だったでしょう。それもかなわなくなり、足腰も立たなくなつて寝たきりになったり、「ちゅうき」とか今で言う脳梗塞で行動が不安定になつて嫁さんの世話にならなければならぬ人も多かつたでしょう。そして今なら回復できるかも知れないリハビリの施設も方法もありませんでした。それでもまあ、年をとるといふのはこんなもんだ、と本人も世間も思っていたようなフシがあります。私の四人の祖父母のうち、唯一お目にかかったことのある母方の祖父も、そんな晩年でした。小牧市に住んでいましたが、自転車しかない時代、お目にかかるとも年に一、二度くらいのものでした。陽だまりでポーツとしていたのを思い出します。

さて、今では冒頭のような施設が発達して、老人の介護がとても楽になつてきたようです。少なくとも嫁さんは、介護から開放される時間が出来ました。実はこれが一番の効用ではないかと思つています。以前は、農作業のかたわら介護をし、それでも不満のある老人から愚痴を言われ、たまにたずねて来ては優しい言葉をかける小姑と比較されて、嫁はたまつたものではなかつたというようです。

ところで、こういう介護を受けるのに、男性は女性よりも抵抗が多いようです。とくに社会的な地位が高いと思われる人が、そんな傾向にあるようです。「オレはもつとえらいはずだ、こんな幼稚園児のような扱いを受けるのは屈辱だ」といふことなんでしょうか。現に二年前に亡くなつた私の義父もそんな感じで、施設に入つても、最後まで回りと融和できずに、手こずらせました。そこへ行くと女の人は、わりに皆さんと楽しく出来るようで、うまくいくようです。男というのは組織の中の序列が決まっていなくてどう行動していいかわからない人がいるようですが、これはチンパンジーや二ホンザルのオスでも同じらしいです。最近、高齢者の仲間入りをさせてもらつて考え込んでいます。

お仏膳の受付をしています
平成二十二年のお仏膳を受付
中です。 今までどおり、一年分
一膳あたり千五百円です。
お供えのお菓子は、お下がりとして
お持ち帰りください。

ご注意

最近、庭木の剪定中に脚立から
落ちて、亡くなったという人の話
をよく聞きます。亡くなっていな
くても、落ちて頭を打ち内出血し
て大変だったという人は、本当に
数え切れないほどです。皆さん、
いつまでも若いわけではありません
ん。昔は機敏に出来たことが今は
体型も運動神経も格段に違ってい
るのです。三メートルから逆さま
に落ちれば、打ち所が悪く死ぬの
です。剪定で脚立に乗る人はどう
かヘルメットくらいかぶってくだ
さい。二千円ほどで買えるのです。
車のシートベルトやエアバッグよ
り切実だと思えます。

菩提樹たより

わが菩提樹も三度目の冬を迎え
ようとしています。最初の年は一
メートルくらいでしたが、次の年
は一メートル半ほどで、それも二
本。今年は根本から数本に枝分か
れして、高さも二メートル半くら

いになりました。なんとかこのま
ま冬を越せないかと思つていま
すが、まだだめでしょうか。



これはその葉っぱで
すが、長さ約二十セン
チあり、貫禄です。ゴ
ムの木の仲間だとい
うことです。

来年もよい年に
なりますように

檀方総代	伊藤辰男
伊藤秀文	伊藤正廣
伊藤正廣	伊藤正廣
大野和義	大野和義
大野悟	大野悟
木村廣孝	木村廣孝
春日井浩道	春日井浩道
住職	

編集後記に替えて

永年続いた自民党の政権が倒れ、
民主党の政権が誕生しました。得
票率では、それほど変わらないよ
うですが、ほんの少しの得票差が、
大幅な議席数の差に現れる小選挙
区制のためなのでしょう。先回の
小泉改革の時には、逆の結果が出
たのですから、自民党も文句は言
えないでしょう。これは国民にと
ってはある意味とても有利なこと
で、政権党にとつてはそれこそ針
のムシロのような厳しいものにな
るようです。それだけ国民の不満
を招く政治をすることは出来なく

なるからです。国民に不満を抱か
せたら最後、政権党もあつという
間に失業者の集団に変わつてしま
います。そのためにひたすら国民
のための政治が実現されるとすれ
ば、こんな良いことは無いはずで
す。政府は昔のように「おかみ」
風を吹かしていることは出来なく
なりました。ただ、政策が国民の
短期的な人気取りになつて、政治
が不安定になるという欠点はあり
そうです。

しかし、今回の政変は本当に自
民党の失政によるものでしょうか。
アメリカがぶれの自由競争を強調
しすぎた結果、大量の非正規雇用
を生み出し格差社会を作つてしま
つたといえれば確かにそうなので
すが、しかしそうしなければ日本の

企業そのものが国際的な競争力を
なくし、潰れてしまつていたので
はないか、要は国際的にそんな競
争的な環境にあつて、日本だけが
後ろを向いていることが出来たで
あろうか、疑問に思われてしま
うのです。企業というのは、自分が
生き残るためには、国益に反して
でも、安い労働力を求めていかな
ければならないのです。こういう
意味では、企業はまさしく生き物
と同じように振舞うのでしょう。
だから、こうした政策を自民党の
失政とすることはいささかためら

いが残ります。しかも今回の政変
をもたらしした国民の不満は、アメ
リカのバブルがはじけた影響の不
景気ではなかったのか。そう考え
れば、自民党の責任にするべき失
策などほとんど無かつたのではな
いか。引き金になつたのは、あれ
ほどまじめで正直で、愛嬌すらあ
つた麻生総理大臣が、少しドジで
間抜けなことを言うもんだから、
それが悪いというように判断され
てしまつたのではないのでしょうか。
「年寄りには働くことしか能がな
い」といった発言は、内容的には
正しいと思うのですが、彼の意図
はまかつたくりかえられて報道さ
れてしまつたようです。

民主党が天下を取つたつもりで
いるようですが、まかつたそんな
ことはないと思います。ましてや
小沢さんの力量だつたはずもない
でしょう。政権党もおこるなかれ、
国民も賢くならなければなりません。

「慈眼寺たより」 第七号

平成二十一年十二月十日 発行

ホームページ

<http://www.ma.cmw.ne.jp/jigenji/>